

日本労働年鑑 第57集 1987年版  
The Labour Year Book of Japan 1987

第四部 労働組合と政治・社会運動

III 政党の動向

6 日本共産党

5 労働組合との関係

労働運動にたいする方針

共産党が第一七回大会で労働運動について言及した部分は、つぎのとおりである。

【第一七回大会決議(部分)】

全民労協による労働戦線の右翼的再編成の進行は、労働組合運動自体を、反革新と労資協調の危機的状况にみちびくと同時に、反共野党の新与党化を推進する大衆運動内部の基盤ともなっている。それだけに、労働組合の階級的民主的強化と階級的ナショナルセンター確立の展望のもとに労働戦線の革新的潮流を結集する統一労組懇の役割は重要である。統一労組懇は、着実に影響力をひろげて、共闘の組合もふくめるとすでに二百五十万人をこえる規模をもつようになり、国民的諸要求にもとづく一連の闘争でも、共闘の中心の役割をになってきた。労働者の生活と権利、職場の自由と民主主義の擁護という労働組合ほんらいの任務へのとりくみをふくめ、この運動の実力を着実に前進させる努力が重要である。

労働組合に関連する政策

共産党が労働組合にかんして発表した政策としてはつぎのようなものがある。カッコ内は「赤旗」の日付。

(1)職場の自由と民主主義の新たな前進を一新・職場の自由十カ条(八五年一〇月二八日)、(2)労働者の団結した力で、生活と権利をまもり、非核の政府実現を一第五七回メーデーにあたって(八六年五月一日)、(3)分割・民営化反対を堅持し国民世論結集の中心に一国労第三九回大会に期待されるもの(七月二〇日)。

統一労組懇との関係

八五年八月一〇日から二日間、千代田公会堂で開かれた統一労組懇年次総会には金子書記局長が、一二月一日に熱海市で開かれた臨時総会には荒堀広幹部会委員が、八六年七月二六日から三日間、千代田公会堂で開かれた八六年度年次総会には金子書記局長がそれぞれ来賓として出席し、あいさつした。

また、八五年二月一九日、引間博愛統一労組懇常任代表委員が、共産党第一七回大会に出席して来賓としてあいさつした。

労働組合との懇談会

八五年一月一七日、非核・平和のための労働組合と日本共産党との懇談会が開かれ、六六労組七〇人が出席した。懇談会では、不破幹部会委員長が「申し入れ」の趣旨説明とまとめをおこなった(発言大要は「赤旗」八五年一月二二日付参照)。

#### 労働組合大会への出席・あいさつ

過去一年半の間、共産党の代表が出席してあいさつをのべた労働組合の大会には、つぎのようなものがある。

紙パ労連第七六回定期大会(八五年七月八～一〇日)、日高教(一ツ橋)第六三回定期大会(七月九～一二日)、日教組第六回定期大会(七月一〇～一三日)、日社労組第三五回定期全国大会(七月一二～一四日)、全印総連第三四回定期大会(七月一四～一六日)、日本医労協第三四回定期大会(七月二三～二六日)、全司法第四一回定期大会(七月二四～二七日)、新聞労連第六五回定期大会(七月二四～二六日)、政労協第五五回定期大会(七月二四～二六日)、全動労第一二回定期大会(七月二五～二八日)、民放労連第六〇回定期大会(七月二七～二九日)、国労第四八回定期大会(七月二九日～八月二日)、全農協労連第四九回定期大会(七月三一日～八月二日)、全国一般第三八回定期大会(七月三一日～八月二日)、国公労連第二一回定期大会(八月二一～二三日)、自治労第四八回定期大会(八月二二～二五日)、建設一般全日自労第四八回臨時大会(八月二四～二五日)、全証労協第三二回定期代表委員会(八月二四～二五日)、全造船機械第五〇回定期大会(八月三一日～九月二日)、全商業第一九回定期大会(九月七～八日)、運輸一般第一七回定期大会(九月八～一〇日)、全港建・日港建統一大会(九月七～九日)、全法務労組第四〇回定期大会(九月一〇日)、生協労連第一八回定期大会(九月一一～一三日)、全労働第二八回定期大会(九月一八～二一日)、国金労第五六回定期大会(一〇月三～五日)、都職労第六七回定期大会(一〇月一六～一八日)、全建総連第二六回定期大会(一〇月二三～二五日)、日教組第六二回臨時大会(一一月二七日)、新聞労連第六七回臨時大会(八六年一月二九～三一日)、全医労第四〇回定期全国大会(七月八～二日)、都労連第四一回定期大会(七月八日)、日高教(一ツ橋)第六五回定期大会(七月九～一二日)、郵産労第六回定期大会(七月一一～一三日)、日社労組三六回臨時全国大会(七月一八～二〇日)、全印総連第三五回全国大会(七月二〇～二二日)、新聞労連第六八回定期大会(七月二三～二五日)、民放労連第六二回定期大会(七月二六～二八日)、全動労第一三回定期大会(七月二九～三一日)、全国一般第三九回大会(七月三一日～八月二日)、建設一般全日自労第五〇回定期大会(八月二一～二三日)、自治労第五〇回定期大会(八月二六～二九日)、国公労連第二三回定期大会(七月二七～二九日)、全港湾第四九回定期全国大会(九月四～六日)、全港建第二回定期大会(九月六～八日)、通産労第九回定期大会(九月一三～一四日)、全商業第二〇回定期全国大会(九月一四～一五日)、全労働第二九回定期大会(九月一七～二〇日)、都職労第六九回定期大会(一〇月二二～二四日)、福祉保育労結成大会(一〇月二五～二六日)、全建総連第二七回定期大会(一一月二九～三一日)。

日本労働年鑑 第57集 1987年版

発行 1987年6月25日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

2001年8月1日公開開始